

第4次健康食育あつぎプランの策定に係る 意見交換会

意見交換会の名称	第4次健康食育あつぎプランの策定に係る意見交換会	
開催日時	令和8年9月7日（月）午後7時から8時25分まで	
開催場所	厚木市保健福祉センター3階 ヘルスアップルーム	
参加者数	3人	
担当課	健康医療課	
結果公開日	令和8年9月14日（月）	
会議の経過	1 開会 2 課長挨拶 3 プランの骨子案等説明 4 意見交換 5 閉会	
	質問・意見の概要	市の考え方
1	精神障がいを抱える方や引きこもりの市民が増加していると聞いているが、当プランの9年間の計画期間で「こころの健康」に関する具体策を示さなくてよいのか。	当プランは各取組の方向性を示すものとして認識しています。 こころの健康に係る引きこもり対策等の専門的な精神保健施策については、所管課が具体的な施策を検討・展開しております。当プランでは、必要に応じてその施策に関連する市民アンケート等の結果を参考に指標及び目標値を設定してまいります。
2	健康食育推進協議会の構成員を見る限り、精神保健の分野において深い専門的知見を持つ人物がいないよう感じる。「こころの対策」を具体的に設計し、実行していけるのか不透明である。	健康食育推進協議会では、健康と食育に関する幅広い分野について有識者に議論していただいております。 また、専門的な部分については策定の過程で所管課において検討してまいります。 なお、委員構成については、いただいたご意見を踏まえ、委員選出の際の参

		考にさせていただきます。
3	計画期間の9年間において、社会情勢の変化等、必要に応じて見直しを行うとあるが、実際は計画の見直しについてどのくらいの期間で実施するのか。また、計画に曖昧な表現ではなく、見直し期間を明文化する考えはあるか。	現時点で明文化する考えはありませんが、1年に1回プランに関係する所管課の事業評価を実施する予定です。
4	厚木市健康食育推進協議会の構成内訳や男女比は適正であるのか。適正ではない場合は適切に構成してもらいたい。	関係機関及び有識者で12名、公募で3名の15名で構成しています。また、男女比は、男性5名、女性10名で構成しています。 今後も公募及び男女比については、厚木市附属機関等の設置及び運営に関する要綱に基づく適正な構成に努めてまいります。
5	フレイルとロコモティブシンドロームとは何か。	フレイルとは、加齢等による心身の虚弱を示します。ロコモティブシンドロームとは、主に骨や筋肉などの運動器が衰え、移動機能が低下した状態を示します。
6	近年、ナノプラスチックなどの人体被害が科学的データに基づき問題となっており更なる社会問題となることが予想されている。プラスチック製品を排除削減するようなことを盛り込んでほしい。	プラスチックについての問題は、科学的な裏付けが整理され、市民への発信が必要となった際、コラム等で記載することも検討いたします。
7	高齢期の「低栄養や閉じこもり・孤立を予防する地域の環境づくり」とは具体的にどのようなことを考えているのか。	環境づくりを整備するため、所管課と調整を図りながら、地域介護予防自主グループへの支援等、事業の展開を推進してまいります。
8	第3次プランの評価結果において、全125の目標指標のうち29項目が「評価不可」となっているが、今後の進行管理や改善をどのように示していくのか。	第3次プラン計画期間中に当プランの考え方のベースとなる国の健康日本21の改訂等に伴い、これまでのアンケート項目を見直したことで、評価の経年変化が比較できなくなったことが主な要因です。「評価不可」となっ

		た項目が多岐にわたってしまった点については、反省すべき点と受けとめ、当プランの評価の見直しを検討してまいります。
9	取組分野において環境と食は密接な関係があるため、分野を追加しても良いのではないか。	環境と食が密接な関係にあることは認識しておりますが、環境と食の関係については環境に起因する課題が多く、当プランの新たな分野として位置づけることは適當ではないと考えます。しかしながら、環境が食に与える影響も踏まえ、各取組分野の施策の中で必要に応じて掲載してまいります。
10	検診受診率が約 23%のがん検診をはじめ、他の検診受診率も低いが原因はなにか。受診率が 7、8 割なるよう努力してもらいたい。	例年、同様の数値で推移しています。特に就労世代は、本市の検診等を受診せずとも職場での健診や人間ドッグ等を受診するため数値が低い傾向にあります。また、職場での健診等を含む全体の受診率は、本市検診等のみの受診率よりも高くなりますが、すべてを把握はするのは困難な状況にあります。しかしながら、検診等の受診率向上は病気等の早期発見、治療につながり、健康な状態で生活できることにつながるため、周知啓発に努めてまいります。
11	口腔の健康は重要であるが、歯科健康診査の受診率が非常に低いのはなぜか。	特に若い就労世代の方の受診率が低いことが挙げられます。検診等の受診率向上だけでなく早期発見・治療につながるため周知啓発に努めてまいります。